

札幌市立澄川南小学校の取組【読書：図書館モデル公開授業】

1 研究のねらい

日常の読書の様子を見ていると、進んで本を手にする児童と、何を読んで良いか、選書の時点で迷ってしまう児童とに分かれている。「これを読んでごらん。」と本を勧めると素直に手をとって読む児童が多いのも本校の6学年の特徴である。そこで、読書の幅を広げることをねらい、学習を行いたいと考えた。また、調べ学習をする際に、安易にインターネットに頼る傾向にあることから、調べ学習に本が活用できることを実感させたいと考えた。

2 取組内容

(1) 国語「本は友達～私と本」と関連して（中央図書館で）

①ガイドブックを参考に読んでみたい本を見付ける

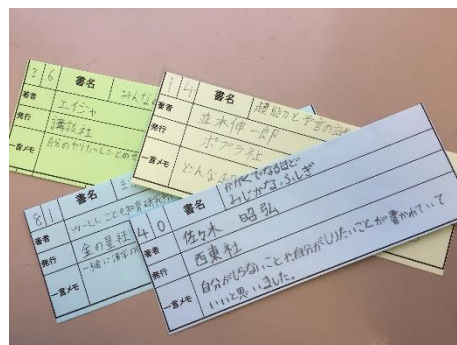
「どんなときに」「どんな本を」など、これまでの自分の読書経験を振り返り、自分がよく読むジャンル、反対に読む機会が少ないジャンルなどをとらえた。それをもとに、本のガイドブックを活用し、自分が読んでみたいと思う本を何冊かピックアップした。

②本の分類法を知る

司書の方から、図書館における本の配架のきまりや工夫などを教えていただいた。

③くじで引いた数字の棚から、興味のある本を選ぶ

- ・ 1～9までのくじを用意し、事前に3枚引いておく。
- ・ 選んだ番号の棚から自分が読んでみたいと思う本を選ぶ。
- ・ 奥付を見ながら、「出版社」「著者」「書名」「一言メモ」などをカードに記載する。



④事前に選んだ読みたい本のリストを参考にして、本を選ぶ

前半の学習で本の並び方を理解したうえで、自分が読みたい本を探す活動を行った。なかなか見付けられない児童については、司書の方に声を掛け一緒に探してもらったりと、図書館の方と関わりながら本を選ぶ姿が見られた。事前に選んだ本がなかったという児童についても豊富な蔵書から読んでみたいと本を選び出すことができた。選んだ本については、2冊借り、家で読むこととした。



(2) 総合的な学習の時間「働くってどんなこと」と関連して（中央図書館で）

① 仕事について様々な本から情報を集めることができることを知る

あらかじめ図書館の方に児童が興味のある仕事をお伝えし、関連の本を揃えていただいた。

当日は、まず、司書の方に複数の本を参考にすることで、仕事を様々な角度から見るができることを教えていただいた。その際、例を挙げながら説明していただいたことで、その後の活動で児童が選書をする際に役立った。



② 自分の興味のある仕事について調べる

「臨床心理士」「審判」「パティシエ」など、あらかじめ考えていた仕事について、本から情報を集めた。事前に用意していただいた棚から選んだり、自分で選び出したりと選書の方法は様々であったが、複数の本を参考にしながら情報を集める児童の姿が多く見られた。調べた事柄は、その後の進路探究学習の発表会の際に、ポスターにまとめた。



3 成果と課題

(1) 成果

① 国語「本は友達～私と本」と関連して

くじで引いた番号の棚から本を選ぶ活動については、普段なかなか手に取ることのないジャンルの本に目を向けるよい機会となった。選んだカードに本を紹介する一言を書く欄を設けたが、「知らなかったことを知ることができた。」「自分の興味のあることが載っていた。」など、新たな発見や興味のある事柄を詳しく知ることができたことを喜ぶ声が目立った。また、奥付に関しても、「言われて初めて知った。」という子も多かったが、引用元を明らかにする際に必要であることを理解することにつながった。

② 総合的な学習の時間「働くってどんなこと」と関連して

仕事だけではなく、本を元に情報を集める際に、様々な角度から見つめることで、より多くの情報を集めることができることを知ることにつながった。また、豊富な蔵書があるからこそ、どの児童も興味のある仕事についての本を見付けることができ、「調べることができた」という達成感を味わうことができた。

(2) 課題

今回の実践を通して児童が得た知識を日常に生かしていくことができるように、教科と関連して指導を続けることが必要である。